

事業名

小中一貫教育と街づくり

目標

コーディネーターおよびボランティアの育成と人材バンクの充実、広報の充実
 学校支援事業の具体化、地域組織および学校園との交流・連携・協働

1. 取組の視点

本事業を進めるにあたり、活動の中心を担ってくださるボランティアの方々に、気持ちよく参加していただけるように、コーディネーターが地域と学校園との連携を図り、それぞれとの連絡を密に取ることで、事業を円滑にすすめていきました。中でも支援の内容は、依頼を受けるだけでなく、協議会からも提案できるよう、支援依頼書と提案書を使い、学校園とともに考え、計画・実行していくことができました。

2. 取組の概要



昨年度の反省から、学校園支援ボランティアの呼びかけを地域住民全体とPTA保護者向けにそれぞれ作成したチラシを配布することで、年齢・性別、様々な特技・資格を持った方に登録してもらうことができました。同時に、支援の内容を具体化するために学校園とコーディネーターで話し合い、多くの支援活動を行うことができました。中学校では、部活動の見守り巡回をすることで、生徒からの挨拶がこれまで以上に元気に声をかけられるようになってきました。小学校では、ボランティアが家庭科の実技授業の補助に入ることで、一人一人に目がいき届く授業を支援することができました。また、小中学校それぞれの図書室では、休み時間を利用した図書貸し出しが行われる際に、ボランティアが訪れ、子どもたちのお手伝いや、本の整理整頓、補修などを行っています。手作りの本立てには、子どもたちへのメッセージが書かれています。幼稚園では、体づく

りの運動の指導や、その補助を行うことで、子どもたちが体を動かすことの楽しさを知ってくれた様子です。また、小学校の参観・懇談時に、園児のお預かりを実施することで、小学生を持つ保護者が安心して、学校へ出向くことができるようになったとの声をいただいています。



また、校区内にある県立奈良西養護学校の支援にも、ボランティアの方々にご協力いただき、高等部生徒の就労訓練のお手伝いや、環境整備、また、給食を一緒にいただき、生徒・児童たちとのコミュニケーションの場となっています。

その他、研修・講演会の開催や、地域の主な行事への参加、また、共同事業としては、里山づくりを進めながら、地域の教育力向上に取り組んでいます。

3. 成果と課題

コーディネーターが事業を円滑に進めるために役割分担することで、細かな動きができるようになり、活発な活動ができました。その半面、スケジュールの調整が必要となり、それぞれがスムーズな活動ができるように、改めて事業の進め方を見直す必要があると思われます。ボランティアに関しては、それぞれの情報を活用し、次年度の事業に役立てたいと考えています。また今後、登録人数が増えることを想定すると、ボランティアの方々との連絡方法や、情報の共有をどのように進めていくかを検討していかなければならないと思います。協議会三年目の活動で、組織の安定化を目指していきたいと考えています。

事業名

地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目標

教育環境の整った今年度は、学校及び地域が協働して小中一貫教育の基盤を整え充実させるのに、力を入れる。また地域の方々の協力を得て、小中一貫教育の推進を図る。

1. 取組の視点

今年度春には体育館やグラウンドも完成し、施設一体型小中一貫教育校としてようやく施設設備が整いました。また、富雄第三中学校区地域教育協議会も発足して2年目を迎え、地域と学校の連携も、コーディネーターの積極的な活動のおかげで、軌道に乗ってきています。11月には、奈良市小中一貫教育研究発表会が本校を会場に行われました。

2. 取組の概要

中学校の図書情報室にも、ボランティアの方の協力を得て、昼休みに本の整理や清掃等を進めていただきました。また、蔵書が少ないため、地域のみなさんから図書の寄贈をいただいたり、地域予算で購入を進めたりして、少しずつ充実を図っています。地域の方

の協力を得て、8年生「職場体験」学習や7年「職業人に学ぶ」等を進めるとともに、キャリア教育を進めるに当たって必要な図書もそろえることができるようになってきています。



夏休み前に、地域の方に、鎌や枝切りバサミ、包丁等をといでもらい、それらを



使って、夏のPTA校内清掃と同じ時に地域ボランティアの方にも学校前の美化を手伝っていただきました。また、花壇の整備作業や花の苗植え作業等を手伝ってもらい、小中一貫教育研究発表大会の会場を飾ることができまし。他に、草刈機の修理等も行っていただき、予算の厳しい中、地域の方に協力いただいています。

小学校5年から入部できる部活動では、活動場所を巡回し、安全を見守っていただいています。このように



地域の方々のボランティア協力を得て、小中一貫教育を進めています。

今年は、特に広報活動にも力を入れ、地域教育協議会の様々な取組を機会ある毎にホームページで発信しています。また、ホームページやお便り等をご覧になられた方から、ボランティアの申

1月28日(月) ボランティア交流会 **new**

1月28日(月)、10時30分からランチルームにて、ボランティア交流会を行いました。昨晩からの雪が積もる中、26名の参加がありました。はじめに、ホームページの地域連携コーナーを利用して、この1年層を振り返りました。続いて事業別の実施回数やべん人数の報告がありました。図書交換活動の回数も多く、95回、のべ197人の参加がありました。学校別では、小中学校140回(のべ409人)、幼稚園14回(のべ106人)、奈良西織織学校4回(のべ52人)、地域2回(のべ135人)。今年度(1月28日現在)の交換活動の総計は、160回、のべ702人となります。たくさんのボランティアの皆さまのご支援、ありがとうございます。後半は、二つのグループに分かれて、交流を行いました。お話を飲みながら、参加者からボランティアを志すことや疑問、こんなこともしたいなどいろいろな意見が出されました。「無理のない程度にできる範囲でボランティアを続けたい」とうれしいお話をいただけたひとときでした。最後に会長から、学校支援の充実だけでなく地域づくりの視点の重要性についての話がありました。来年度の本校区の事業テーマは、「幼小中連携教育を地域とともに、そしてつくり」として進めています。これからも、地域のみなさま、どうぞよろしくお願ひいたします。



ホームページで振り返り

グループに分かれて交流

地区会員の挨拶

グラフ・子どもの作品など

し出も見られるようになっていきます。

3. 成果と課題

富雄第三中学校が開校するとともに地域教育協議会が発足し、連携する中で小中一貫教育を進めてきました。今では、ボランティア活動も軌道に乗り、小中一貫教育の基盤もでき、学校の地域担当者とコーディネーターとで連絡を密に取り、活動を進めています。来年度は、さらにコーディネーターの協力を得て学校支援活動を充実し、教職員・ボランティア・生徒の関係を結びつけるような取組を企画・推進していきたいです。

事業名 地域の教育力を生かした小中一貫教育の推進

目 標 奈良のすばらしさを地域の方から学ぶことを通して、奈良に対する誇りと自信を育むとともに、奈良を愛する子どもたちを育てる。

1. 取組の視点

本校は、昨年度中学校を新設し、施設一体型の小中一貫教育校として2年目を迎えました。また、富雄第三中学校区地域教育協議会も発足してこちらも2年目を迎え、地域と学校の連携もコーディネーターの積極的な活動のおかげで、軌道に乗ってきています。4月には、体育館やグラウンドも完成し、竣工記念式典が開催され、11月には、奈良市小中一貫教育研究



発表会が本校を会場に行われました。

地域には、様々な分野で活躍してこられた方や現在も活躍しておられる方がたくさんいらっしゃるの

ので、学習計画を立てるにあたっては、地域の教育力を最大限に生かした教育内容を構築し、子どもたちが自分の暮らす町に誇りと自信をもてるよう工夫しているところでもあります。

2. 取組の概要

【地域ボランティアによる学校支援】



本年度、図書室の整備、家庭科授業補助を中心に支援いただきました。また、花壇の整備や花の苗植え等も手伝ってもらい、研究発表大会の会場を飾ることができました。他に、草刈機の修理やビオトープの橋の架け替え等も行っていただき、予算の厳しい中、地域の方に協力いただいています。

本年度、図書室の整備、家庭科授業補助を中心に支援いただきました。また、花壇の整備や花の苗植え等も手伝ってもらい、研究発表大会の会場を飾ることができました。他に、草刈機の修理やビオトープの橋の架け替え等も行っていただき、予算の厳しい中、地域の方に協力いただいています。

【地域の方からの学び】

伝統文化に携わっておられる方、奈良の自然や歴史に深い見識をおもちの方、被爆体験をおもちの方などをゲストティーチャーとしてお招きし、子どもたちにとって豊かな学びを創造することができました。



- 被爆体験から、平和の大切さを学ぼう（6年）
- 能・狂言にふれてみよう（6年）
- 古都奈良の世界遺産について学ぼう（5年）
- 霊山寺のひみつを調べよう（4年）
- 赤膚焼に挑戦しよう（3年）
- スマイル会との交流（3年）
- まちたんけん（1, 2年）
- おいもをそだてよう（ひまわり）



【交流活動をとoshした学び】

地域の方々や近隣の学校との交流活動をとoshして学んだことも多かったです。

- 絵本のゆうえんち（読み聞かせ他）（全学年対象）



- 新1年生体験入学（関係保育園、幼稚園の参加）
- 奈良西養護学校と交流しよう（4年）
- 高校生から英語を学ぼう（4, 5年）
- 近畿大学農学部との交流（3年、4年）

3. 成果と課題

富雄第三中学校が開校するとともに地域教育協議会が発足し、連携する中で小中一貫教育を進めてきました。今では、ボランティア活動も軌道に乗り、小中一貫教育の基盤もでき、学校の地域担当者とコーディネーターとで連絡を密に取り、活動を進めています。来年度は、さらにコーディネーターの協力を得て学校支援活動を充実し、教職員・ボランティア・児童の関係を結びつけるような取り組みを企画・推進していきたいです。

事業名

しなやかな心と体を育てよう

目標

様々な人とのかかわりや、人とのつながりを深めながら、心情面を育て体力向上に努める。

1. 取組の視点

地域の方たちの協力と教育力で幼児たちは恵まれた環境の中で豊かな心を育てています。また、近大生とのふれあいコンサートや文楽、クリスマスコンサート、音楽紙芝居など様々な感動体験をして様々な人とかかわることの大切さを知ったり、わくわくタイムを実施し自分から意欲的に体を動かすことの楽しさを味わったりすることが出来るように考えました。

2. 取組の概要

文楽であ・そ・ほ 古典文化を身近に感じ、子ども



たちの心に残る体験ができればと考えました。大学の先生のご指導で地域ボランティアの方々

が文楽人形を操ってくださいました。子どもたちと人形との掛け合いや文楽人形劇など子どもたちが理解しやすい内容を考えくださり、楽しく参加することができました。また、人形に触れる時間も作ってください、貴重な体験をすることができました。

音楽紙芝居 子どもたちに聞く力を身につける経験として、音楽紙芝居を実施しました。

「干支のはなし」の紙芝居を聞きながらシンセサイザーの効



果音が入り、いつもとは違う雰囲気子どもたちは楽しく過ごすことができました。また、効果音の使い方等に子どもたちや教師も影響を受け生活発表会での参考になり、取り入れて遊ぶ姿があ

ります。

わくわくタイム 子どもたちの実態を見ると、保育室の中で遊ぶことや制作をすることが好き、戸外で遊んでいてもすぐ保育室に入ってくるという様子でした。そこで子どもたちが自分から進ん



で体を動かすことの好きな幼児に育ててほしいと考え、計画的に運動遊びを取り入れました。地域ボランティアの方々を中心にエグザイルの曲に合わせて体操を考えてくださったり、マット遊びや跳び箱、平均台、フープなどを使った運動遊びを中心に計画を立ててくださったりしました。また、体力作り駆け足や縄跳びなども楽しく取り組めるような内容を考えくださり、動いた後は楽しかったという満足感でいっぱいになりました。その後の子どもたちは、運動会や生



活発表会に運動遊びを取り入れもっと遊びたい、このようなこともできるようになったよと意欲

的に体を動かすことが好きな幼児になってきました。

3. 成果と課題

地域の方や様々な方たちに協力いただき幼稚園は次のステップへの学びの場となっています。このつながりを大切にしながら心も体もたくましい幼児の育成に努めてきました。しかし、園舎の老朽化もあり、子どもたちが安心して遊べる環境を整えていくことが次年度の課題と考えています。